

除草剤試験の手法(5)

－ジャンボ剤試験での藻類の除去方法－

ジャンボ剤試験で「処理時の田面水表面に藻類が大発生してしまい、試験がうまく出来ず困った」という経験をお持ちの試験地あるいは試験場の方々は少なくないと思います。(写真－1)

試験区が小面積であれば ①如雨露でシャワーをかけて水中に沈める ②網ですくい取る ③水をかけ流して区外へ追い出すなどの方法が考えられますが、1aあるいは2a規模の試験区ではその対応に苦勞されているのではないのでしょうか。

各場所毎で独自に工夫された対処方法があると思いますが、ここでは植調研で行っている方法について紹介いたします。

本方法はわずか5～6分で1aの試験区から藻類を取り除くことができます。(最低人員2名必要)。

用意するもの

- ①防鳥網(使い古しのもので構いません) : 幅10m以上のもの
- ②500mlペットボトル空き容器(蓋付き) : 数個～十数個
- ③ビニールヒモ

除去装置の作成方法

- ①防鳥網を束ね、太いロープ状にする。束の長さは10m以上(試験区の短辺の長さ以上)とし、十数カ所をビニールひもで縛る(写真－2)。

- ②束の中央付近数カ所に、蓋をしたペットボトルの空き容器を挿入し、動かさないようにビニールひもで縛る(写真－3)。
- これで完成です。

除去装置の使用法

- ①試験区内の水深を出来る限り高くする(苗が傷むのを防ぐ目的)。
- 理想的には苗と同じくらいの高さになるまで水深を高くして下さい。

- ②除去装置を試験区内の一辺に浮かべ、束の両端を持ち水面の藻類を片側へ集めるようにゆっくり引っ張る(写真－4, 5, 6)。
- 装置の材料に網を使用しているので、藻類の多くがこれにからまり水面から藻類が取り除かれます。

原理はタンカーのオイル流出事故などで使用される「オイルフェンス」と同様です。

- ③藻類が集まったら試験区の水口を開け区外へ流し出す(写真－7)。
- ④藻類を出し終えたら、水口を元通りに戻す(水深が高くなりすぎていたら、しばらく水を流し出して水位を調節して下さい)。

本方法の注意点

本除去方法で注意しなければならない点は「苗が傷まないくらいの水位にする」ことです。あまりに遅い時期や、稲苗が大きく生長した時期には応用できない場合があります。



写真-1 試験区の水面全体に藻類が発生している様子



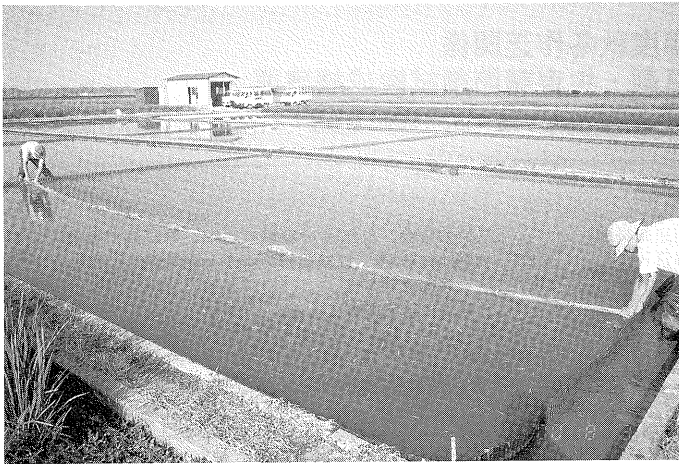
写真-2 藻類除去装置（使い古しの防鳥網）



写真-3 ペットボトル(500ml容)を挿入した状態



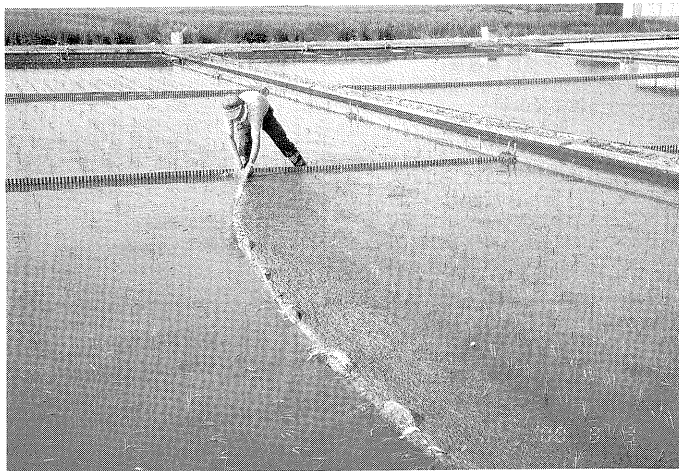
写真-4 除去装置の両端を2名で引き合い、試験区の片側に置く



写真－5

両側で引っ張りながら、徐々に入水口側へ藻類を寄せていく。

「原理は、オイルフェンス」



写真－6

水面の藻類がきれいに集められる様子
装置が通過した地点のイネは、除去直後は水面に倒れた状態だが、すぐに回復する（立ち上がる）ので問題ない。



写真－7

藻類が集まったら、入水口を開けて一気に流し出す。